

〔評者〕
田尻久雄
日本消化器内視鏡学会理事
長



上部消化管内視鏡診断 マル秘ノート

野中康一，濱本英剛，
田沼徳真，市原 真 著

● A5・頁 256 2016 年 11 月
定価：本体 4,500 円＋税
[ISBN978-4-260-02848-6] 医学書院刊

この度、『上部消化管内視鏡診断マル秘ノート』が、野中康一（埼玉医科大学国際医療センター消化器内科准教授）、濱本英剛（手稲溪仁会病院消化器内科医長）、田沼徳真（手稲溪仁会病院消化器内科主任医長）、市原真（札幌厚生病院病理診断科医長）という新進気鋭の 4 名の著者により、医学書院から刊行された。

筆頭著者である野中康一先生との初めての出会いは、2015 年 4 月ポルトガルのリスボンで開催された共焦点内視鏡の国際会議である。当時、野中先生は、NTT 東日本関東病院に勤務されており、共焦点内視鏡に関する研究成果について、多くの症例経験に基づくエビデンスを根拠に理路整然と流暢な英語で講演されていた。その姿は、度胸の据わった類いまれな優秀な青年医師として光輝いて見えた。その後、個人的にも交友関係が続き、謙虚で真面目な性格ながら、大変ユーモア溢れる親しみやすい先生だと理解してきた。本書でしばしば使用されている「モテる」内視鏡医の模範であろう。

本書は、野中先生が「はじめに」で記載しているように 10 年間にわたり、若い先生に行ってきた勉強会や講演の内容のポイントをまとめたものが中心である。10 年間にわたり食道と胃の診断について、気になるところを縮小カラーコピーしてノートに貼り付けて診断のポイントを丹念にまとめたきた几帳面さと整理の良さに感心するとともに、たゆまぬ努力に心から敬意を表したい。

各項目の文章を読みながら、極めて新鮮で驚きさえ

も覚えたというのが正直な感想である。文章が日常会話であり、実に平易で内視鏡室やカンファレンスでの会話をそのまま再現しているようで、野中先生はじめ著者たちの人柄が随所に表れている。それでいて、内視鏡診断学の本質が文献やデータに基づいて客観的に記述されているとともに、要所に初学者が覚えるべき重要なポイントが整理されている。しかも従来のテキストでは、一言の文章で済まされるような事項「量の目ひだ」とは？」「brownish area は全部癌なのか？」「萎縮の程度の判定のコツとは？」「ひだの太まりとは？」などが初学者に理解できるように丁寧に解説されており、内視鏡研修を始めたばかりの先生が内視鏡を好きになって楽しくなるような構成で仕上がっている。

さらに Web サイト上の「胃と腸」電子版につながるという特典も本書の特徴である。すなわち、「胃と腸」の参考文献を紹介する「モテ文献『胃と腸』」欄に、QR コードというスマホ読み込み用の画像が付いていて、「胃と腸」の要旨までが読める Web ページに飛ぶことができる。日常診療で忙しい若い内視鏡医に気配りした親切な試みであり、これからの書籍のスタイルになるものと思う。

研修医から実際に内視鏡を指導する立場の先生まで肩肘を張らずに読める本として、手元に置いて、ぜひとも日常診療に活用していただきたいと願っている。

近い将来、本書の続編が登場することを期待したい。